

深イ～話！

No.73

「プチ紳士・プチ淑女を探せ！運動」の創始者で代表の志賀内泰弘さんのお話です。

実は、志賀内さん、ある時期、細かいことで厳しく怒鳴る上司に悩まされていました。

1つの小さなミスがあるだけで、1時間も2時間も説教を受けるのです。

これも仕事なので、じっと耐えてきましたが、そのうち体に異変をきたすようになります。

吐き気と下痢。ひどいときは、1日3食のうちに2食を吐きました。

休日でも、上司のことをフツと思い出すだけで、トイレに駆け込むほどでした。

そんな生活が2年も続き、猛烈な下痢と高熱のため入院します。

ストレスで内臓がボロボロになっていて、トイレで下血が止まらず、生死をさまようほどの命の危険に陥りました。

長い治療期間中に、あるお医者さんから言われて忘れない言葉がありました。

「君には感謝が足りない」

納得できませんでした。

厳しすぎる上司のせいで病気になり、死にそうになったのです。

なぜ感謝しなければならないのでしょうか。

しかし、そのお医者さんは重ねて言いました。

「それでも上司に感謝しなさい。そうでないと、また病気になりますよ」

彼はその言葉をかみしめ、形だけでも、「〇〇さん、ありがとう」と唱えるようになりました。

毎日、毎日。何度も、何度も。



2、3年経ち、彼は自分が変わっているに気づきました。

その上司が少しも憎くなくなり、心から「ありがとう」と言えようになったのです。

次第に体調が回復し、社会復帰をすることができました。

特効薬が効いたこともあります。感謝の気持ちが志賀内さんの心と体を癒したのです。

「プチ紳士・プチ淑女を探せ！運動」は、入院中から志賀内さんが考えていたことだそうです。

「身体が弱いから、あとどれだけ生きられるかわからないけど、日本を思いやりいっぱいにするためにやろう」と。

その決意が次第に実り、「プチ紳士・プチ淑女を探せ！運動」は、今年10年目を迎えました。

「いい話」満載の月刊紙「プチ紳士からの手紙」も、10年間続き、有志の協力で、現在全国360校以上の小中学校へ無料配布もおこなっています。多くの学校で、道徳の授業やホームルームや講話、学級通信などで活用されているそうです。